



だくよりみ Vol.15

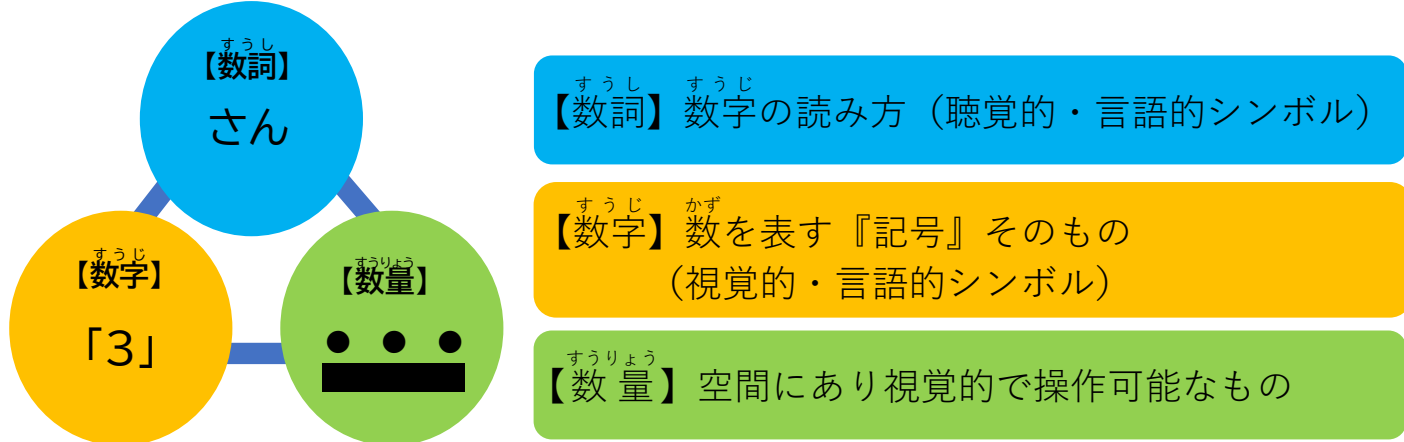
～数の基礎について～

こどもたちは生活の中でいろいろな経験を積み重ね、**数**を理解できるようになります。今回は、発達の順序や支援について考える前に、**数**の基本的な要素について解説していきます。

1. 数の三項関係について

例えば「数字が好きだから**数**は解っている」「100までカウントできるから**数**は解っている」というお話をよく聞くことがあります。実際の様子には、**数**詞と指差しが一致していなかったり、**数**えることは出来るが全部で何個あったかが解らないなど、**数字をたくさん言えることが必ずしも数量の理解につながるとは限りません**。**数**の操作を行う前に、「**数**詞」や「**数字**」が「**数量**」の理解と結びついているかを確認する必要があります。

● **数**には三つの要素があります。



● **分離量**と**連続量**

また、**数量**は『**分離量**』『**連続量**』に分けられます。

分離量

● ● ●
ドットなど、一個、二個、と数えることができる分かれた量。

連続量

長さ、大きさなど、区切ることができない連続的な量。

2. 数の性質とは

数の性質には、「**基数性**」と「**序数性**」という二つの性質があります。

基数性

数量とその性質を表す。(例)「○個」など

りんごが 5 個



基数性が弱い場合、およその**数**がわからなかったり、大小がわからなかったりします。

序数性

順番を表す。(例)「○番目」など

前から 1 番目



前から 5 番目

序数性が弱い場合、**数**を順番に数えていくことが難しい場合があります。

以上が**数**についての支援を考えていくための基礎です。こどもたちは日頃の遊びの中で、体験的に身につけていきます。次回は、**数**理解の発達について解説していきます。

< 参考 >

澳塩渚.子どもの数理解の発達について.発達教育,初版;2023.4月号,p.28-29.
栗本奈緒子,国語・算数の初歩でつまづく子への教え方と教材,株式会社学研教育みらい,2020.
古池若葉,数表記・数詞・具体物の三項関係に関する論考; 京都女子大学発達教育学部紀要 2016, 第12号,p99-106